

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 1月31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390101261		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム城南スマイル ～ にじ		
所在地	熊本県熊本市南区城南町下宮地397-2番地		
自己評価作成日	平成27年 1月31日	評価結果市町村受理日	平成28年 6月 6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アクシス
所在地	熊本県熊本市南区八幡9-6-51
訪問調査日	平成28年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「火の君の里」で知られる城南町の自然豊かで、静かな住宅地の一角にあるグループホームです。近くには浜戸川や田畑が広がり絶好の散歩コースとなっており、自然を満喫することができます。また近くには同法人の小規模特養と協力病院があり、医療面や緊急時の協力体制が整っています。どなたでも入居しやすいように、低額の利用料金の設定を行っています。更にお互いを思いやる気持ちを大切に利用者本位にお一人おひとりが安心して、安全に自分らしい暮らしが出来るよう地域の方々と連携を取りながら寄り添って支援します。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は、店舗が建ち並ぶ国道から少し入った田園風景の中にあり、そこは澄んだ空気と利便性が共存し、散歩のついでに買い物を済ませることが出来るという恵まれた環境にあります。また、地熱を利用した高気密・高断熱工法の建物は、年間を通して室温の変化が少なく、利用者にとっても優しい住環境を提供しています。また事業所は、地域との交流にも積極的に取り組んでおり昨年末の餅つきでは、区長の応援のもと地域の子供から大人までの方が大勢参加され、大変盛り上がったそうです。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示して、職員全員で共有している。また毎日朝礼時に理念を唱和する事で、職員間で理念の共有化を図りながら実践に繋げている。	「利用者本位～常に相手の立場になって～」という基本理念と5項目から成る行動の指針を掲げ、毎日の朝礼時に唱和を行っている。管理者は「自分の親と違ってサービスに取り組み、ここに預けて良かった」と思ってもらうことが目標と話しており、唱和の結果としても以前よりも利用者ひとりひとりに対する気付きが出て来るようになったと感じている。職員からは「業務本位になることがあったり、職員がざわざわしていると利用者もそうあったりと、今のはいけなかった、と反省することがある。なにかあれば話し合い、利用者本位に立ち帰るように心掛けている」という話が聞かれた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の園児との交流をしている。また町内会に加入しており、祭り・スポーツ大会・一斉清掃等の地域行事及び活動には積極的に参加している。更に区の一員として会報の回覧、当法人主催の餅つきの開催等地域に根ざしている。	パークゴルフ大会には入居者と一緒に参加しており、その後の親睦会にも職員が数名参加し、交流を行っている。また、区の子供会が主催するどんどやや地域の一斉清掃・水路廻りの草取りなど、地域住民の一人として参加している。昨年末の餅つき大会は区長の応援のもと、地域の方が子供から大人まで大勢参加され、大盛り上がりだったそうです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の相談に対しては悩みを傾聴すると共に、具体的に認知症の理解や支援方法を解り易く助言を行っている。また公的な専門機関の紹介など支援に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回運営推進会議を開催して、入居者の利用状況や様子及び行事報告を実施している。会議で出た意見や要望から保育園児との交流及び餅つきの開催（当ホーム主催）に繋がっており、関係性の向上に努めている。	基本的には、奇数月の第4水曜日を予定しているが、メンバーの都合なども考慮した上で決定するようにしている。外部からのメンバーは区長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者の家族となっている。会議の内容としては、利用状況や利用者の状態、事業所の取り組みなどについて報告し、質疑応答を行っている。	

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回熊本市から介護相談専門員の派遣にて、なじみの関係が構築されている。また入居者が自分の思いを言語化する事によって、精神状態の安定が図られている。	運営推進会議への市担当者の出席はないが、地域包括支援センターとは良好な関係を築いており、情報交換や研修会などで交流を行っている。職員からは、手振りも交えて“ちょっと待ってください”とつい言ってしまう話が聞かれた。特に夜勤の時、同時に声がかかり対応に苦慮する場面もあるとの事であった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の根絶を職員全員で意識している。また外部研修の参加や職場内勉強会等で、職員間で共有化できるような取組みを実施している。	認知症についての勉強会をひと月おきに行っており、言葉による抑制も含めて身体拘束とは何かを学んでいる。その他、グループ施設との合同勉強会も行っている。職員からは、車イスをテーブルに深く押し込み立ち上がれないようにすることや、思いを無視することも含まれると思うという意見が聞かれた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアワーカーミーティングの後に、外部研修の復講や職場内勉強会を実施。また朝礼時に新聞記事及びニュース等を取り上げて、常に意識化している。更に職員間が相互に観察者となって防止できるように、取組みを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアワーカーミーティングの後に、外部研修の復講や職場内勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安や疑問に対しては、噛み砕いて解り易くし説明を行っている。また安心感が得られて、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には近況報告を兼ねて、オープンに意見が伺える様な雰囲気作りに努めている。また意見及び要望等に関しては、早期解決に努めている。	事業所には家族会があり、年に1～2回開催している。意見交換を行い、要望などの聞き取りを行っている。その他、日頃の面会時を利用して声かけを行い、意見や要望また苦情などが言いやすい雰囲気づくりにも取り組んでいる。第三者苦情処理機関のポスターも見やすい玄関ホールに掲示している。また、利用者本人からの意見や要望については、介護相談専門員を受け入れ、聞き取りを行っている。	家族からすれば、言いにくさや遠慮がちになることも少なからずあると思います。今後とも、何でも言える環境作りを取り組み、サービスの質の向上に繋げて欲しいと思います。

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアワーカーミーティングや日常業務の中で随時話し合っ、意見やアイデアを出しやすい雰囲気作りに努めている。また新入職者は職場内での疑問、経験者は業務改善案の発言傾向にあり。更に全員で話し合っ、早めの対応を心がけている。	管理者からは、最初はあまり意見が出ず、一方的になりがちだったようですが、話しやすい雰囲気作りを進めた結果、現在では意見が出るようになったそうである。職員からも、話しやすい雰囲気であるとの声がかれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所にて職員とコミュニケーションを図って、改善に努めている。また年2回各職員は自己評価を実施して、目標を掲げ達成状況により賞与等に成果として反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事前に法人内部研修や外部研修等に、計画的に参加できる機会を設けている。また職員の経験や個別目標に沿って、段階的に研修参加の案内や情報提供及び資格取得の推進を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	熊本市ブロック連絡協議会の研修会には、参加して交流に努めている。また他ホームから職員研修を受け入れて、お互い研鑽を深めている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困り事や不安及び要望等に耳を傾けて、安心して生活できるよう支援している。また本人が言語化出来ない場合は、表情・言動・行動等サインの読み取りを行っている。更に家族と連絡を密に情報の共有化を図って、環境に馴染めるように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前及び契約時に必ず面会して、話しを聴くように努めている。思いを傾聴し安心感が得られて、必要なケア支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付後は、必要とされるサービスの見極めを行っている。また法人全体のサービスやその他のサービスについても視野に入れた対応に努めている。		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念や自立支援の視点で、家庭的な雰囲気の中で家族と同様の意識で生活できていると思われる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開かれたホーム作りを目指しているので、家族とのコミュニケーションを大切にしている。また情報の交換に努めて、情報の共有を出来る限り図っている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事への参加や通院の付き添い及び久しぶりに従妹と再会並びに、元同僚の訪問等出来る限りの支援を行っている。また近所の妹様宅へ訪問の支援を行うこともある。更に様々な形でご本人と家族等が共に過ごす時間を働きかけている。	通院の際に従妹を訪問したり、近所の妹さん宅へ送迎したりと、関係継続を支援している。また現在も家族の協力で、馴染みの美容室を利用している方もおられる。事業所では、本人と家族などが一緒に過ごすことが出来る様、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者同士の関係性については情報を共有して、テーブルメイトやソファの席などの配慮に努めている。また良好な関係を築いて、過ごせるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前の相談にも気軽に応じて、転居先にも惜しまず情報提供を協力している。また時々面会に行って、馴染みの関係をできる限り継続している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、個々の思いや暮らし方の希望及び意向の把握に努めている。本人が言語化できない場合は、表情・言動・行動等サインの読み取りを行って、家族情報や生活歴等から思いや意向を考慮して対応している。	家族からの情報や生活歴また日々の係わりの中で、利用者が見せる表情や言動をもとに、思いや意向の把握に努めている。職員からも、家族の情報をもとに思いの把握に繋げているという話があった。日頃あまり会話がなない利用者の場合でも、昔の話をするとう話が返ってくるとのことである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話の中から生活歴及び、これまでの暮らしについて情報を集め把握に努めている。また入居後は家族や本人との会話の中から、少しずつ本人の意向に近づけられるように努めている。		

25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者との関わりの中で常に、現状を把握し段階的にケアにあたっている。また利用者が持つ力を見極めて、出来る限りその方らしい暮らしが出来るよう支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望及び要望を把握して、モニタリングを参考に介護計画を作成している。また担当職員や主治医及び看護師の意見も踏まえて、定期的に評価・修正すると共に必要な場合は随時行っている。	家族からの要望や意見の聞き取りについては、主に面会時を利用して行っている。全家族が市内在住との事で、面会は結構頻繁に行われているようである。モニタリングについては3カ月に1回、管理者と担当者で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録及び職員間からの申し送り等にて、利用者の変化や気付き等の情報を共有してケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族付添いが出来ない時の定期・臨時の受診支援や個別の買物支援等、ホームの方で対応している。また既存のサービスに捉われないケア実践に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園児との交流や近隣の方の訪問は、入居者の楽しみな時間となっている。またスポーツ大会等、地域の行事に参加している。更に避難訓練は計画の策定段階にて、地元消防団員やボランティア及び町内会の方々の参加協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望で決めて頂いている。また月1回の定期及び臨時受診の介助を行いながら、迅速に対応している。更に他の専門医への受診前後には、協力医院に報告・連絡・相談をする事で強い関係性を確保している。	本人。家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。毎月の定期受診は職員が付き添っている。家族が付き添うような場合には、日頃の状態をメモにして渡したり、口頭で説明したりして適切な医療が受けられるよう支援している。また、協力病院とも連携が取れており、医師の意向もあって、早め早めの対応を行っている。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックを行うと伴に、情報交換を密にし迅速に対応できるようにしている。また看護職員が配置されて、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援に努めている。更に利用者の状態を知らせる連絡表を作成し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や主治医及び医療関係者の方とは連絡を密にして、治療が受けられるよう支援している。職員も頻回に交替で面会して、状態把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合はホームで出来る精一杯の支援について家族説明を行って、今後についての協議を行っている。また出来る限り家族や本人の希望及び要望に沿った、最良な援助が出来るよう医療機関との連携を取りながら職員全員で取り組んでいる。	重度化した場合の対応としては、事業所が出来ることを説明した上で、協力医と密に連絡を取り、早め早めの対応を心掛けている。食事の摂取が難しくなった場合などは、医師との相談の上、入院の手続きを行っている。現在、看取り支援については考えていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケアワーカーミーティングの後に外部研修の復講や職場内勉強会等において、救急の対応については対応例を参考にシミュレーション等を交えながら学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の利用者と共に避難訓練を行って、避難経路の確認や消火器の使い方を実施している。また地元消防団やボランティア及び地域の皆様の協力を得て想定避難訓練を実施している。	年に2回、火災避難訓練計画書を提出の上、利用者も一緒に訓練を行っている。夜勤を行う職員が主体となって実施しており、区長や消防団員の協力も得ている。消防団とはすぐに連絡が取れるよう、団長との連携も取れる様にしている。訓練後の消防署からの講評では、排煙窓の開閉を指摘されることもあったが、腰をかがめ鼻と口にタオルで覆うなどの対処方法は良かったなどの参考になる意見を頂いている。	夜勤を行う職員からは、防災設備の確認やサービスに入る前に戸締りを確認するなど、心構えについて話があった。防災アドバイザーは緊急事態に遭遇すると、訓練以上の力を発揮することは不可能と言っています。今一度、訓練に取り組む姿勢の再確認と、想定外にならない取り組みをお願いします。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の「利用者本位」や個別対応を基本にしている。また利用者の立場になって尊敬の気持ちを忘れずに、優しい対応に努めている。	理念にも謳われているように、利用者本位、常に相手の立場になって実践することが、取りも直さず人格の尊厳に繋がるという話があった。職員は、排泄関係について尋ねる時は他の利用者に聞こえない様に耳元で話す様にしていること、利用者のプライバシーに関する話になった場合などは、間に入り場面を変えられるようなこともあると話していた。	

37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の困り事や不安及び要望等に耳を傾けて、安心して生活が送れるようにしている。また複数ある場合の菓子や外食メニュー及び衣類並びに買い物等、選択・判断・決定の機会を捉えて活かすように日常から気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように、個々のペースを大切にしている。また自己決定に添って、自由に過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思決定に添って可能な限り一緒に選んでいる。また自分で選ぶ事が困難な方については、職員が選んで確認して頂けるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲の準備、テーブル拭きや下膳及び湯呑洗い等を一緒にしている。また家族と一緒に、外食する利用者もおられる。	現在、全員が自立しており、しかも普通食での支援を行っている。事業所内では、調理を行っていない為、利用者が準備に参加できるのは、おやつ作りの時となっている。訪問した時も、団子を丸めておられました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックを行って、摂取量の把握に努めている。また個々の状態把握に努めトロミを付けたりして、食べやすい形態等で提供。更に安全においしく食べる事が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行って、段階的に支援を行っている。また口臭予防や感染防止として、歯磨き・お茶嗽を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で、個々の排泄パターンを把握できている。また利用者の仕草や落ち着かない行動等サインを見落とさないよう観察を行って、トイレへの声かけや誘導及び声かけ並びに一部介助を個別に行っている。更に要介護4の方も日中は、トイレでの排泄を基本にしている。	排泄チェック表をつけており、主に時間による声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。その他、イスから立ち上がるとうとする、落ち着きなくなるなどの個別のサインにも注意しており、声掛け誘導を行っている。また、夜間にオムツ利用の方も昼間はリハパンに変え、トイレでの排泄を支援している。	

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>多目の水分摂取をして頂いている。また食物繊維やヨーグルト等で腸内環境を改善。更に散歩・体操・腹部マッサージ等、便秘の改善に取り組んでいる。そして必要に応じ主治医に相談を行って、内服処方をして頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日と入浴時間の設定はあるが、利用者の希望があれば設定以外でも入浴を行っている。また拒否ある時は順番を変更したりして、声かけ方法に工夫を行い臨機応変に対応している。</p>	<p>入浴の回数は週3回を予定している。利用者それぞれに好みの湯加減があるので、一人入浴後はお湯を十分出して、温度の調整とお湯をキレイにするようにしている。入浴を完全に拒否される方はおられないようだが、“めんどくさい”と言ってぐずられる方がいるようで、気が進まない時は日を改めるようにしているとの事でした。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活サイクルに合うように、出来る限り自由に過ごせるよう支援行っている。また安心して頂ける声かけを心がけて、快適に過ごせるよう環境整備を行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬剤情報文書を個人ファイルに綴って、確認できるよう支援している。また与薬チェック表にチェックを行って、確実に与薬確認を行っている。更に状態変化時は主治医や薬剤師へ相談を行って、迅速に対応している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活リズムをつける意味で、体操や月毎の歌を利用者と職員で話合っている。また家事・掃除・下膳・挨拶等の役割を持って、継続できるよう支援している。更に日常的な散歩・外気浴・昔話・会話・買い物・ドライブ・誕生日会・クリスマス会・もちつき等、日常で張りのある毎日が送れるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>個別買い物の利用者同伴や、玄関前での外気浴や日光浴。また近所の妹様宅へ職員と一緒に訪問。更に短時間のドライブや家族にも時折お願いしている。</p>	<p>すぐ近くにスーパーがあり、日用品や洋服など買い物に出かけている。また近所に妹さん宅がある利用者もおられ、送迎の支援も行っている。その他、短時間のドライブ支援などを行っている。</p>	<p>事業所はのどかな田園地帯にあり、自然環境に恵まれています。これからは、植物が芽吹き、花が咲く一年でも一番良い季節を迎えます。外気浴や日光浴の機会を増やしてみたいかがでしょうか。</p>

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物の希望が有れば、買い物支援している。また家族の同意の上で紛失も前提に、小額の金銭管理をご本人に託している。更に所持される方は3千円迄で、お願いしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>かかってきた電話は、直に本人へ取り次いでいる。また毎日娘様から電話が掛かって、毎日の楽しみな事となっている。更に自ら電話が出来ない利用者には、スタッフが代わりにダイヤルして、話ができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>地熱利用の建物で、冬場でも快適に過ごすことができる。また日中は自然光の中で過ごせるように、採光に工夫している。更にリビングで過ごされる際は、自分の居場所を確保されており楽しく過ごされている。</p>	<p>事業所は高気密高断熱の建物で、地熱をエネルギー源とした空調を利用しており、室内温度は年間を通してほぼ一定になっている。この冬もとても冷え込んだ朝でも室内の温度は19℃であったそうです。また、室内の空気環境の浄化にも努めており、消臭や花粉、ウイルス除去のために薬剤噴霧器を接している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>殆どの入居者がリビングで過ごされて、自分の居場所を確保されている。また気の合う者同士となる席の配置等、調整している。更にトラブルがあれば、早期に席の変更を行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、使い慣れたテレビ・時計・整理ダンス・仏壇・衣装がけ等、馴染みの物や大切な物を持ち込まれ本人が安心して過ごしやすい配慮に努めている。</p>	<p>居室の基本的な設備は、ベッド、空調となっている。寝具やダンス、その他日用品などは、出来るだけ使い慣れたものを持ってきてもらうよう指導している。テレビやフォトスタンドなどを設置し、居心地良く過ごせるよう部屋づくりを行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーで廊下・トイレ・浴室の手すりを設置。また居室にはネームプレートを表示し、トイレは大きく表示して、分かる工夫に努めている。更に安心感が得られる生活空間を提供できている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない